相浦　その繋がりの話、本当によくわかります。治療の際、患部は触りますけど、だいたい痛みの原因はそこじゃないですよね。ただ明るみに出てるだけで、痛がっている箇所の反対側がガチガチだったり、腰もカンカンになっていたり、痛い時はどこが痛くなってもおかしくない状態です。痛みが出ているところだけの問題じゃないことがほとんどで、他のところに反応がでたりします。だから接骨院だけの知識では治せない、治療法に答えがありません。経験を積んで患者さんそれぞれを診て治療法を変えていくことが大事です。

病は気から

相浦　僕もそう思います。全く病気しない人もやっぱりいるわけですよね。

宮原　いいフレーズだと思います。いわゆる医学的なことから言えば、例えば自律神経がどうしたとか、心配事があり呼吸が浅くなってとか、ホルモンバランスが乱れてなど色々ありますが、基本的にその病気になる状態っていうのは、自分を見失っている状態だと思います。だから、その病気が治ったとしても、自分を見失っているというベースが変わってなければ、たまたま今回の症状は治るけど、また別の時に出てくるかもしれません。生きてれば死ぬまで何かしら起きるじゃないですか。結局それをずっと繰り返すわけであって、だから自分を見失っている状態が、さらにそれを繰り返して、さらに自分を見失うっていう。だから、ここらを早く抜け出した方がいいんですよ。

相浦　それを聞いたら、ある程度の場合、取り越し苦労の痛みだったりすることが多いですからね。でも今、みんな病院に行きたがるんですよ。行って安心したいのだと思います。

宮原　結局心配するっていうのは、自分のことがわかってないからです。なんでそうなっているのか。なんで今、頭が痛いのか理由がわかってないから不安なわけでしょ。不安だから病院行くわけです。常に不安を持ってる人っていうのは、自分から症状を拾いに行っちゃう。誰だって、ちょっと頭痛い、ちょっと首が痛いってあるじゃないですか。不安を持ってる人はこれを、頭痛いから何か大きな病気かもしれないって深刻に落ち込むんですね。

相浦　早期発見、早期治療みたいな流れもわかりますが、やりすぎな傾向もあると思います。僕の接骨院に来る人は、大体不安でくる人が多い。色々考える人が多い。あまり考えすぎない方がいいのにと思います。どうしても怪我してる人は仕方ないのですが。でも中学生とか、スポーツで怪我をして来る子も、例えば精神的な負荷がかかってて、うまくいかないという気持ちから、パフォーマンスが下がって怪我につながっている部分が多かったりします。治療の時は、安心してもらえるような声かけで終わりたいなと意識しています。怪我はいつかは治りますが、虫歯は、必ず治療しないといけない気がするんですけど、いかがですか?放っておいたらダメですよね?

宮原　放っておいても大丈夫な虫歯もありますよ。歯がほかのところと違うのは、治療って言いながら人工物をあてがうでしょう。軟組織とは違うんですよ。切り傷とか、軟組織は治癒します。腫れとかもいつかは治るじゃないですか。けど歯の場合は1回いじったらもう元に戻らないんです。セラミック詰めたりなんかして。熱膨張率とか弾性係数が天然の歯とは違うんですよ。歪むとかね。そうするとそこに隙間ができるから、別の意味の虫歯が始まっちゃう。やらなければ虫歯拡大しなかったのにっていう虫歯が圧倒的に多いですよ。

相浦　歯に関しては、早期治療はちょっと違うかもしれないですね。

現代医療について

宮原　現代医療と西洋医療っていう言い方があると思うんですよ。現代医療っていうのは、ホリスティックなというか、割といろんな要素を含んでるかなと思うんですよ。一番誤解が生じやすいのは西洋医療じゃないですか?いろんな国があって、いろんな民族があって、それぞれに長い歴史があって、そこの中で培ってきた医療とか、体のケアの仕方とか、食文化とかいろいろあるじゃないですか。どれがいい悪いって話じゃないですよ。なのに、日本では西洋医学を、要するに、科学的根拠というやつに基づいた西洋医療だけが重んじられて、他のやつは偽医学だとかエビデンスがないからとか言うじゃないですか。医療界においては、ある目的があって研究を始めたらその目的を達成するためにエビデンス(根拠)を作っていきますから。全く純粋無垢な研究者が、純粋に疑問を持って純粋に研究した結果、純粋にこんな結果が出たっていうんじゃないですから。なにかを成し遂げるために研究があって、それに対して補助金が出たり企業が援助したり。そこに持っていくためにエビデンスっていうのがあるわけなんで、あんまりエビデンス、エビデンスって言って、それ以外のものは偽物だとかいうのは、だいぶ驕りだなと思います。東洋医学もあっていいと思うし、インド的な医療やヨーロッパの伝統医療もあっていいと思うし。本当はもっといろんなものの中から、その人が選んでいいと思います。やる側に任せてるから、うちの国はこれがメインだから、これで治せって言われるんであって。保険が利かないかもしれませんが、色々な医療があるんだから受ける側がもっと勉強して自分で選んだ方がいいと思います。

相浦　本当、その通りです。痛い目見ないとわからない。怪我でも、慢性的なものでも、病院に行けば痛み止めをもらえるから安心する。けど、根本的に治せているわけではないので、ある程度、痛みを感じてても、今の状況がそろそろ治まるというであれば、薬は飲まなくてもいいと思います。一理あるのは、痛み止めで痛くない時間があった方が、痛みのない状態のありがたみもわかるし、安心します。その安心する気持ちも治療効果に繋がる大切な事かなとも思います。

宮原　人類の時代があとどれだけ続くかわかりませんが、その過渡期に僕らは生きてて。だから今その中で、人類の一員としてやるべきことがあるでしょう。そういう考えを持っていれば、自分が今この現代社会でどういう仕事をして、人に対してどういう役に立って、何をしてっていうことが大事です。そしてその中でたまたま病気したり怪我したりすることだってあるんです。病気を治す・予防するのが第一じゃなくて、治して予防して何をしたいのか?が大事です。先に話した自分を見失っているって、そういうことだと思います。

相浦　病気を治したいと思っているかどうかにもよる気がします。どこ行っても治らないって人もいる、治らない自分が好きなんじゃないかと思ったり…。
自分たちで考えて、判断して、責任持つことが大切です。病院というか、医療業界で、薬やその病気の基準を誰かが決めちゃっているんですよね。
研究だって、結果が百のうち百だったらそれは絶対ですよ。でも、統計で決めていってるから、ほぼ確からしいけど、5%や1%の間違いがあるわけで。その時点で絶対じゃないということですよね。だったらきちんと自分で考えて判断して決めてほしいんです。患者さんに押し付けたらいけないと思っています。

これからの目標

宮原　今、患者さんというか一般の方中心にお話し会をしてて限界を感じています。
うちに来てくれる人はいいけど、前はZoomでお話し会もやっていて、北海道や海外等からも参加してくれていました。が、いざ治療となると近所の歯医者へ行くしかないですよね。本当は僕みたいな歯医者が近くにいないと、と思っています。同じような考えを持った歯科医を募って仲間を増やしていって、少なくとも各県に1院ずつぐらい仲間がいると理想的です。

相浦　塩について賛同してくれる人、接骨院じゃなくてもいいんですけど仲間がいたら嬉しいなと思っています。そういう広がりは夢としてはあります。塩を摂って不調が改善している例がたくさんあります。予防医療として塩がもっと広まってほしいです。

あいうら接骨院・鍼灸院
佐賀県小城市三日月町堀江57-1
TEL.0952-73-3228
営:8:30〜12:00、15:00〜19:30
8:30〜12:00(水曜、土曜)／休:日曜
aiura_sekkostuinn_sinnkyuinn

宮原歯科医院
福岡県久留米市大石町338
TEL.0942-32-9199
miyahara_dc@yahoo.co.jp
mushiba_kimochi